

黒埼南ふれあい協議会ニュース

第24号

ふれあいかわら版

「第5回、ふれあい農業祭り」

消費者と生産者のふれ合いで大賑わい

去る10月2日(日)、黒埼南部公民館前に特設会場を設けて、黒鳥自治会と黒鳥地区に明るい農村を創る会が、ふれあい農業祭りを主催して、さまざまな農産物などを消費者に提供しました。

午前10時の開会セレモニーでは、明るい農村を創る会の本間雄一会長が、「準備に精一杯のサービスを心がけてきた。大いに楽しんでいただきたい。」旨の開会宣言を行いました。

主催者を代表して黒鳥自治会の江端直樹総代が、「今年は豪雨で当地の茶豆も被害を受け収量を減らした。然し、香りと甘さと旨さは申し分ない。」旨の挨拶がありました。

後援として名を連ねている新潟市の西区農政商工課長からは、「地域の絆、人と人との絆を強めながら黒鳥地区の農業祭りは発展してきた。」旨のご挨拶がありました。

また、永井武弘新潟市議会議員からは「祭りを企画された関係者、新鮮な野菜を提供された生産者に感謝したい。消費者からは米や茶豆の栽培に力を入れている生産者の意気込みをくみ取っていただきたい。」旨の祝辞がありました。

当日は、オープンの1時間前から開会を待ちわびる多くの市民で大賑わいです。抽選により地元産の黒鳥茶豆や新米のコシヒカリがプレゼントされる抽選会場は、長蛇の列が途切れることなく続きます。



抽選会場の様子

まずは場内を一巡して見ましょう。最初は枝豆もぎ機の実演会場です。枝豆の束を機械に掛けて行くと枝と葉と豆が分離されて、豆

はベルトコンベアの上を流れてきます。初めて見る人は不思議そうに眺めています。

次のコーナーは特別栽培米がうずたかく積み上げています。コシヒカリ玄米30kg 9千円。安心安全な米づくりをしている農事組合法人黒鳥三番のコーナーです。地域農業を守っている皆さんに敬意を表したいと思います。

今度は、枝豆(肴豆)、新米コシヒカリ、チューリップの袋詰めコーナーです。一回100円、一人5回までです。農事組合法人あさひのコーナーでは新米こしいぶきが30kg 7千5百円です。

そしてJA越後中央黒埼支店の活躍の場所が目飛び込んできます。米粉のもちもちパン、笹だんご、大福もち、醤油おこわ、おはぎ、ひら茸、豊水なし、いちぢく、フランクフルト、ポップコーン、わたあめ、などです。

とにかく見るだけでも楽しいです。こんどは黒鳥の各組や個人が工夫した新鮮野菜市のコーナーです。カボチャ、キャベツ、人参、カリフラワー、里いも、ネギ、などが袋詰めで売られています。



新鮮野菜市の風景

今度は黒鳥産新米コシヒカリ(農薬・肥料、五割の減減米)コーナーです。6キロ1袋2千円(1キロ当たり333円)。黒鳥産枝豆(肴豆)コーナーもあ

りました。700^g入り 1袋 5百円(100^g当たり 72円)。何れも農業祭りだけの値段だそうです。

さらに祭りを充実させるための仕入れ品である、バナナ、キューイフルーツ、ゴールドキューイ、柿、オレンジ、リンゴ、クレープフルーツ、大根と品揃えは豊富です。

豪華賞品を用意した枝豆早もぎ競争も楽しいですね。第一位が枝豆 3kg、第二位が新米 5kg、第三位が新米 3kg、第4位が枝豆 2kg、特別賞として枝豆焼酎、子供の部門賞として新米 1kg、さらに飛び賞の各位に枝豆 1kgです。



枝豆早もぎ競争の様子

この他にも枝豆や新米のおにぎりの試食会あり、サツマイモ収穫体験あり、近藤亜美さんのコンサートあり、あすなる福祉園の販売コーナーあり、黒埼地域母子連絡会の子育て情報発信コーナーありで、消費者と生産者の交流は活況を呈しておりました。

児童の力作を展示!!

黒埼南小学校「文化祭」

去る10月30日(日)、黒埼南小学校で第8回目となる文化祭とPTAが主催する餅つき大会が行われました。

当日は午前9時30分から、待ちかねていたかのように大勢のご家族や地域の住民らが児童たちの力作を見ようと学校は終日大賑わいとなりました。

児童の作品は1年生から6年生まで、絵画と工作を各学年ごとの共通のテーマにもとづいて制作、そして児童それぞれが個性あふれる作品を作り上げておりました。



作品の展示風景

また、今年度の科学研究発表会に参加した時の発表資料や夏休みに取り組んだ様々な作品の展示、クラブ作品の展示とクラブ活動の紹介、さらには総合学習で学んだ学習の紹介、PTA・地域の方々の作品も展示するなど充実した文化祭となりました。

ある見学者は、総合学習「イネの観察記録」のコーナーに立ち止まって、「今の子ども達は自分たちの頃と比較して学習そのものが進んでいる。イネの茎の伸びと根の張る様子を時間的な変化で紹介している」と感嘆しきりでした。

11時から体育館で餅つき大会が始まります。保護者の餅つきの合間に児童達も挟まって餅つきの経験をします。

つきたてのお餅はPTA役員の手さばきでたちまちのうちに各学年の児童・保護者や来賓のもとに届けられ、児童の「手を合わせて」「いただきます」の発声で、おいしくいただきました。

なお、お餅用の新米は学校田の収穫米を農協から餅米に交換していただいたとのことです。



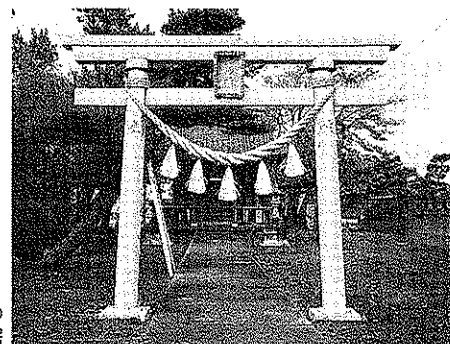
餅つき大会の様子

ひときわ目立つ黄金色のしめ縄

このたび北場地区にある神明社の鳥居に黄金色の豪華なしめ縄が張られました。近年は稲わらの確保としめ縄を作る人の高齢化が各地神社の悩みとなっております。

同地区ではこれらの悩みを解消するため人工のしめ縄を導入したという。関係者によると従来の4年分程度の経費で取得でき、しかも、耐用年数は10年以上と言います。

時代は本稲製のしめ縄から軽くて色あせない人工稲に移りつつあり、多くの神社の要望により誕生したと言います。



北場神明社の鳥居